

会 議 記 録 （ 概 要 ）

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和元年度第2回高松市総合都市交通計画推進協議会
開催日時	令和元年11月1日（金）14時00分～15時30分
開催場所	高松市防災合同庁舎3階301会議室
議題	議事 （1）高松市地域公共交通再編実施計画について 報告 （1）瀬戸・高松連携中枢都市圏の枠組みで行う広域的なバス路線の検討について （2）新駅（三条～太田駅間）整備事業の進捗状況について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	土井会長、長戸委員、川上委員、齋藤委員、野口委員、寺師委員、平田委員、古川委員、東原委員、土井委員、檜田委員（代理：岡崎）、柴山委員、井手委員、近藤委員、笹井委員、上田委員、植松委員、島村委員 オブザーバー：藤岡課長 （欠席者：委員3名）
傍聴者	3人（傍聴席：10席を確保）、報道 3人
担当課及び連絡先	交通政策課 087-839-2138

審議経過及び審議結果
<p>開会 （事務局）</p> <p>本日は、委員の半数以上が出席しているため、当協議会設置条例第6条第2項の規定により、会議は成立する。</p> <p>1 議事</p> <p>次の議事について協議し、下記の結果となった。</p> <p>（1）高松市地域公共交通再編実施計画について</p> <p style="padding-left: 2em;">・・・事務局から説明（資料1）</p> <p>以後審議</p>

(委員)

10月23日に開催された、高松市総合都市交通計画推進協議会 交通機能・結節合同部会の中で、バス事業者から「労務環境が厳しくなっており運転手を確保しにくい」という意見をいただいた。部会においては、事業者の実情を認識し、無理な運行による全滅を防ぐため、需要にあった再編を進める方向で意見がまとまった。

廃止や減便に対しては様々な意見が出てくると思うが、廃止エリアについては、代替輸送となる手段について検討していただきたい。

(委員)

バスの運行は、経費がかかるものである。バス協会とも協議しながら、バス路線が休止する前に、ハイエースやセダン車両等を活用し、車両や費用をコンパクトにし、タクシー事業者が引き継いでいきたいと考えている。

檀紙地区で地域がコミュニティバスの実証実験を開始したが、タクシー事業者2社で協力して運営している。そのような事例を参考にしながら、手法について広げていきたい。

(委員)

バス・タクシー等の業界では運転手不足が顕著となっている。特に路線バスは、ダイヤどおりの運行が必要ということで、運転手不足に拍車がかかっている。また、採算面においても厳しい状況である。乗り合いタクシーや自家用運送も含めて、議論していきたい。

(委員)

先日の交通機能・結節合同部会で申し上げたが、バスの運転手は大型2種免許を取得しなければならないうえ、取得費用も高い。事業者による採用の有無もあるが、若い世代が大型2種免許の取得のため、事前に投資することが難しい。免許取得費用を会社で負担することも行っているが、大量の採用が見込めない状況である。

また、バスは一年中運行しているが、土・日・祝日に休みがほしいという社会的ニーズの中、担い手の確保に対する妨げになっている。JR 西日本で行っている最終便の繰上げなど、働き方改革を進めているが、バス運転手に対してもそのような対応を図るなど、若い人にバスの運転手になりたいと思われるようにしていかなければならない。

高松市地域公共交通再編実施計画にある廃線・減便路線は、現状の需要が少ないことを踏まえ高松市と協議したものである。新駅の完成とともに、新たなバス路線など再編を進めていくが、今後も需要を踏まえながら市民の足となるよう検討を進めていきたい。

(会長)

鉄道ネットワークのあり方懇談会がスタートしたが、その目線で何か意見はあるか。

(委員)

鉄道においても運転手不足という問題がある。人口減少の中でどのようなあり方とするか、それらを踏まえた議論をお願いしているところである。地域住民の利便性をどのように向上させて

いくか、JR・ことでん・バスが連携して、シームレスな乗り継ぎやバリアフリー等を考慮した取り組みを行っていきたい。

(委員)

ことでん新駅事業は、人口減少の中で、このままでは公共交通が無くなるのではないかという懸念がスタートだと思う。新駅には、あらゆるモードでアクセスしてもらうこととなるが、それをどのように受け入れていくかについて、費用対効果も考慮しながら、いい方法を検討していききたい。

(会長)

ことでん新駅には、これまでとは違った新しい交通モードが入ってくる。MaaSの考え方を踏まえ、タクシーやカーシェア、レンタサイクルなど、これまで以上にマイカーに依存しない方法を検討していくことが必要である。今後はソフト面の磨き上げが必要になるが、今回の再編実施計画はそのベースとなるだろう。

(委員)

少子高齢化により路線バスの採算がとれない。愛媛では観光地をめぐるバスがあり、観光客に乗ってもらっているが、高松市には観光地をめぐるコースがなく、生活用の路線バスが観光地まで運行している。再編計画の中で路線バスが廃止されたら、住んでいる人が困るのではないか。

運転できない人が多くなる中、観光地とセット、例えば浦生は屋島を巡るルートとセットにしてはどうか。どの路線でも、観光地とセットにできると思う。

(会長)

観光とは違うが、まちなかループバスやショッピング・レインボー循環バスなどは、通勤・通学だけではなく、買い物客をターゲットにしている。

(事務局)

観光部局とは議論しているが、観光地までバスを走らせても観光客が乗ってくれていない現状がある。観光の動向を見ながら、需要の掘り起こしをしていきたい。観光路線を定期路線とすることは難しい。

(会長)

琴平町では、グリーンスローモビリティという形で公共交通を導入している。そのようなことも検討していければと思う。

(委員)

今回の計画において廃止・減便する路線は、他の路線と比較すると利用者数が少ないという現在の需要を鑑みて決めたものである。観光地と路線バスについて、例えば屋島は、電車とバスを乗り継げば行けるようになっており、バスの運賃も100円で展開している。今後も、観光地と路

線バスの連携が可能か、検討をしていきたい。

(会長)

議事(1) 高松市地域公共交通再編実施計画について、合意していただけるか。

(委員一同)

異議なし

2 報告

(1) 瀬戸・高松連携中枢都市圏の枠組みで行う広域的なバス路線の検討について

(2) 新駅(三条～太田駅間)整備事業の進捗状況について

・・・事務局から説明(資料2)

以後意見

(委員)

ことでん新駅(三条～太田駅間)の駅名等については今月に決まり、ホームページで公表する。

(会長)

県からの意見はないか。

(委員)

特にない。

(委員)

空港と駅をつなぐ調査はどのようにするのか。

(事務局)

空港利用者がどこに、どのようにアクセスしているのかを把握し、バス路線や鉄道との接続等について検討する材料としたい。新駅との接続も重要な要素として考えているが、需要が一定量なければ、バス路線を運行することはできない。特に東讃エリアの需要がどのようなものか、重点的にニーズ調査を行いたい。

3 その他

(事務局)

次回、令和元年度第3回協議会について、2月の開催を予定している。

日程は改めて調整させていただく。

閉会

以 上